様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年　6 月 14 日現在

機関番号：27101
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：22510273
研究課題名（和文）南洋大学の 25 年
—シンガポールの国民国家建設と国民統合に果たした役割と意義—
研究課題名（英文）25 Years of Nanyang University: The Role and Significance in Nation-building and National Integration in Singapore
研究代表者
田村　慶子（TAMURA TSUJI KEIKO）
北九州市立大学・大学院社会システム研究科・教授
研究者番号：90197575

研究成果の概要（和文）：
本研究は、シンガポールで 1956 年に開学し、1980 年に閉鎖された南洋大学という私立の華語（標準中国語）大学の 25 年の歴史を、多民族多言語国家シンガポールの国民統合政策との関連で論じたものである。
大学の歴史は、数では圧倒的に英語派に勝るものの、政治権力からは遠かった華語派華人が英語派との抗争の末に社会の周辺に追いやられていく過程であり、権力の側から見れば、多民族多言語の社会において民族の言語や文化をどのように政治的に管理するのかという政治と言語の葛藤の歴史であった。

研究成果の概要（英文）：
Nantah (Chinese abbreviation for Nanyang University) was the first ever Chinese language university to be put up outside China and she was financially supported by the then millionaires as well as the general public like taxi-drivers and trishaw collies who contributed a day’s earnings for the cause.
As the platform and principal of Nantah clearly show, the founder of Nantah and his followers were in favor of keeping ethnic uniqueness and using it to the development of the whole country. However, the British colonial government and the Singaporean political leaders persisted in the melting pot approach in which each ethnic or communal group would lose its distinctiveness in the process of mixing and melting into a new national entity by using English as common language. There were also worries over the danger of communist infiltration into the Nantah campus amidst the international Cold War. Nantah’s degrees could enjoy no official recognition for a long time.
This research argues language and politics in Singapore by taking the case of reform and closure of Nantah, and also touches upon what kind of contribution Nantah made to the society.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：複合新領域
科研費の分科・細目：地域研究
キーワード：東南アジア

１．研究開始当初の背景
多民族・多言語国家においては、教育とりわけ教育言語（授業言語）の問題が常に政治問題となる。1956 年にシンガポールやマラヤ（現在の半島マレーシア）地域の華語教育の最高学府として創設された南洋大学の 25 年の歴史は、まさに言語と政治の葛藤の歴史であったことに着目した。

２．研究の目的
本研究は、シンガポールで 1956 年に開学して 1980 年に消滅した、南洋大学という私立の華語大学（華語を主な教育言語とする大学）の歴史的役割と意義を、①独立へ向かうイギリス自治領シンガポールおよび独立シンガポール国家の生き残り政策と国民統合政策、②隣国マラヤ連邦（後にはマレーシア連邦）との関係、③イギリスの東南アジア政策、さらには④アジアの冷戦、ポスト冷戦という国際環境と国際変動のなかで、明らかにしようとするものであった。

３．研究の方法
①近年公開され始めている南洋大学関連の史資料を、シンガポール、マレーシア、台湾、中国への海外調査によって収集、分析した。なお、シンガポール、マレーシアでは同窓会も組織され、同窓会が編集した資料集なども入手可能となっている。

②当時のシンガポールの華字新聞（南洋商報、星洲日報）と英字新聞（The Straits Times）、華字雑誌（南洋文摘）を、シンガポール国立大学図書館や公文書館、マレーシア華語研究中心などで収集、分析した。またこれら新聞を通して、大学への一般市民の反応を探った。

③シンガポール及びマレーシアの研究者（華人社会研究、東南アジア政治研究者）とのネットワークを活用して研究テーマの内容を深め、国内外の学会や研究会で積極的に報告して、議論を深めた。

４．研究成果
研究の成果として言えるのは、南大の存在は教育問題ではなく政治問題であったことである。
イギリス植民地政府によって長い間無視もしくは敵視されてきた華校には反植民地・独立を求める左派の学生が多く、そのような学生の進学先となる南大は、反政府活動の拠点となる可能性が大きかった。さらに中国の影響によって共産主義思想が学内に浸透し、南大は共産主義の温床になるとも考えられた。イギリスは南大を大学として承認せず、シンガポール政府も 1968 年まで学位を承認しなかった。隣国マレーシア連邦政府もまた、南洋大学の学生の半数がマレーシア華人であるにもかかわらず、学位を承認しなかった。学位が未承認で政府からの財政支援もほとんど得られない南大学生は大きな不満を抱えて政府と対立し、追い詰められていった。
1965 年にシンガポールが独立すると、新政府は英語の普及を進めるために、南大を英語大学に強引に改編した。この改編は教員と学生のモラルを低下させ、華語大学としての特色を失った南大を魅力のない大学にしてしまった。南大を「二流の大学」にし、そのレッテルを貼ることで消滅に追い込んだのは、シンガポール政府であった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

① 田村慶子「シンガポール 2011 年総選挙と市民社会の萌芽」『法政論集』査読無 Vol.40, 2013, 243-262.
② 田村慶子「都市開発と市民との対話」『JCC（シンガポール日本人商工会議所ジャーナル）』査読無 Vol.3, 2012, 13-17.
③ 田村慶子「南洋大学の消滅と『英語国家』に向かうシンガポール」『法政論集』査読無 Vol.39, No.2, 2012, 1-23.
④ 田村慶子「シンガポールの華人社会と南洋大学の創設」『マレーシア研究』査読有 Vol.1, 2012,27-58.
⑤ 田村慶子「シンガポールの国民統合政策と華語派華人」『法政研究』査読無 Vol.78, No.3, 2011, 899-912.
⑥ 田村慶子「シンガポールの南洋大学：『権力に祝福されない大学』の 25 年」『南洋史学』査読有 Vol.75・76, 2010, 24-36.
⑦ 田村慶子「シンガポールにおける言語と政治：南洋大学の『マラヤ化』をめぐって」『法政論集』査読無 Vol.38, No.1・

2, 2010, 1-31.

〔学会発表〕(計４件)

① 田村慶子「シンガポールの華語派華人と南洋大学」南島史学会、2012 年 11 月 10 日、九州産業大学。
② 田村慶子「変わるシンガポール、変わらないシンガポール」上智大学文化研究所特別講演会、2012 年 6 月 27 日、上智大学。
③ 田村慶子「リー・クアンユー後のシンガポール：社会の『亀裂』は埋まるのか」アジア政経学会西日本大会、2011 年 6 月 25 日、九州大学。
④ 田村慶子「シンガポールの南洋大学：『権力に祝福されない大学』の 25 年」南洋史学会、2010 年 8 月 5 日、中国福建省福州市福州大飯店。

〔図書〕(計 3 件)

① 田村慶子『多民族国家シンガポールの政治と言語：「消滅」した南洋大学の 25 年』明石書店、2013, 209pp.
② Keiko TAMURA Family in Flux in Southeast Asia: Institution, Ideology, practice, 2012, pp.441-465.
③ 田村慶子『東南アジア現代政治入門』ミネルバ書房、2011, pp.1-12, 79-100.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

田村　慶子（TAMURA TSUJI KEIKO）
北九州市立大学・大学院社会システム研究科・教授

研究者番号：90197575

(2)研究分担者

なし　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

なし　　（　　）

研究者番号：